

# 超多収で炭疽病に強いチャ新品種「しずゆたか」

## [研究のねらい]

- ・近年、リーフ茶の消費が低迷する一方、ドリンク飲料等の原料となる茶の需要は増加している。
- ・また、輸出の拡大等に伴い、海外で需要の高い有機栽培茶の生産が増加している。
- ・このため、生産現場からは、多収性で耐病虫性の強い品種が求められている。
- ・当センターでは、主力品種「やぶきた」の2倍の収量性を持ち、主要病害「炭疽病」に強い晩生のチャ新品種「しずゆたか」を育成した。

## [研究の成果]

### ○「やぶきた」比2倍の超多収性

- ・「しずゆたか」の10a当たり生葉収量は、4年間の平均で、「やぶきた」と比較して一番茶が2.2倍、二番茶が2.6倍、秋冬番茶(秋整枝量)が1.7倍であり、年間合計では2.0倍となる(図1)。

### ○「つゆひかり」並みに強い炭疽病耐性

- ・「しずゆたか」の炭疽病発生程度は、7年間の平均で5段階評価の1.5であり、「やぶきた」の3.2に比べて大幅に少なく、炭疽病に強い品種「つゆひかり」の1.4と同程度である(図2)。

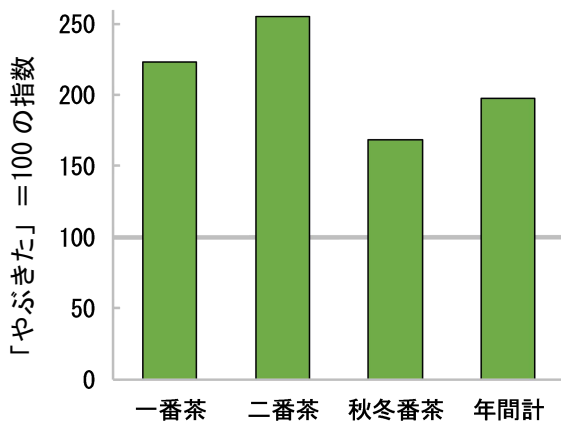


図1 10a 当たり収量  
(定植4～7年目平均)

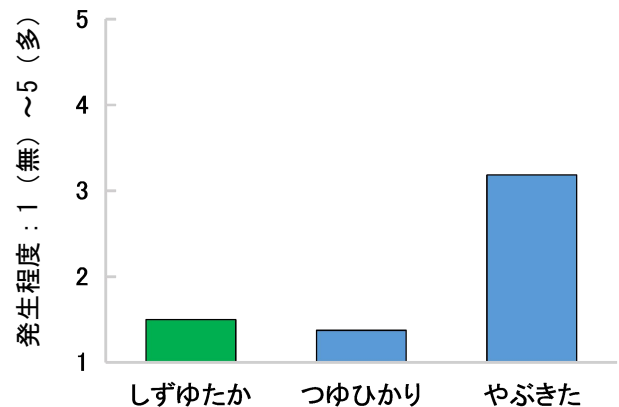


図2 炭疽病の発生程度  
(定植1～7年目平均)

### ○来歴及びその他特性

- ・来歴: 種子親♀「ごこう」×花粉親♂「香駿」
- ・早晚性: 晩生(一番茶摘採期「やぶきた」比+6日)
- ・樹姿: 開張型
- ・樹勢: 強
- ・耐寒性: 赤枯れ『やや強』
- ・耐病虫性: 赤焼病『中』、クワシロカイガラムシ『中』
- ・品質: 鮮緑な色沢、青みのある水色、甘みを感じる香味



図3 「しずゆたか」の一番茶新芽と水色